



日本遺産
JAPAN HERITAGE
桑都物語

由木中央小



令和7年11月28日
学校だより 第10号
八王子市立由木中央小学校

教育目標 「すすんで学習をしよう」 「あったかい心をもとう」 「じょうぶな体をつくろう」

HP アドレス <https://hachioji-school.ed.jp/yugce/>

校長 松山 大作

自分の思いを伝える

副校長 遠田 毅

先日開催いたしました展覧会には、ご多用の中、誠にありがとうございました。多くの保護者、地域の皆様にご来場いただき、子どもたちが創造した図工や家庭科等の作品を熱心にご覧いただけたこと、心より感謝申し上げます。展覧会テーマ「感じて！わたしの思い・色・形」のもと、子どもたちが作品に込めた「思い」を言葉で伝え合う学びを深めるため、今回初めて「子どもガイド」という新たな試みを実施いたしました。これは、4・5・6年生の子どもたちが、1・2・3年生の児童やご来場の方々に向けて、自身の作品を解説するという取組です。当日、子どもたちは、作品に込めた思いや工夫した点、製作過程での苦労などを、自分の言葉で一生懸命に伝えました。来場者の方々も、時折子どもたちに質問を投げかけながら、その声に熱心に耳を傾けてくださり、会場は温かい交流の場となりました。

図工の時間、子どもたちは色や形、手触りなど、造形感覚を駆使して、イメージの世界を追求します。手を動かし、試行錯誤を繰り返す中で、偶然生まれた色や形から「いい感じ！」と新たな発見をする、このプロセスが、創造的な思考力を育みます。3年生以上の図工では、授業の終わりに「冒険ノート」を用い、「やってみたこと」「気付いたこと」「やってみたいこと」を記録し、活動を内省する習慣を付けています。今回の「子どもガイド」実施にあたり、4・5・6年生は、改めて自分の作品と深く向き合いました。授業で書き溜めた「冒険ノート」を参考に、自分の思いや製作意図を言葉として整理する作業を行ったのです。そして展覧会当日、子どもたちは、作品への思いや製作過程での苦労、こだわりなどを自身の言葉で堂々と伝えきりました。この経験は、授業での学びをより一層深く、確かなものにしたと確信しています。

展覧会が始まる前、「自分から声を掛けられるか不安」と話していた子もいました。しかし、当日は皆勇気を出して来場者に声を掛け、無事にガイドを成し遂げました。ガイドを終え、来場者の方から「ありがとう」と感謝の言葉を掛けていただいた瞬間、子どもたちは大きな達成感と満足感を味わうことができました。「7人にガイドしました！」と嬉しそうに報告する子もいたほどです。今回の経験は、子どもたちにとってかけがえのない大きな自信へとつながりました。

いただいた保護者アンケートより、一部を抜粋してご紹介させていただきます。

- ★ 製作の過程の話を聞いて、楽しいだけではない、いろいろな気持ちの葛藤があったのだと気付きました。
- ★ どんなコンセプトで作られたのか、どんな工夫をしたのかが見えて、とても興味深かったです。お話を聞くことで作品の見え方が全然違いますね。
- ★ 個人的には、息子が数人の保護者の方々に自分から声をかけている姿を見られて嬉しかったです。
- ★ 子どもたちの言葉で解説してもらえるのは、作品を作った本人たち、観に行く来場者、両者にとって満足感が上がると感じます。

このほかにも大変多くの温かいご感想をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

本校はこれからも、子どもたちが自分の思いをもち、それを表現し、伝え合うことを大切にしたい教育を推進して参ります。今後とも、本校の教育活動へのご理解ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

